

**開発途上国の労働者を対象とする職業保健に
関する国際教育協力モデルの開発
—スリランカにおける感染症予防教育の経験に基づいて—**

**北海道大学 大学院医学研究科
玉城英彦**

事業の目的

- 本事業は、円借款によるインフラ事業などに組合わせるタイプの、**職業保健衛生教育・人材開発等の国際協力パッケージの開発**を志向する。
- これに対応する**国際教育協力モデルの開発**が本事業の目的である。
- これは、感染症の予防に関する疫学調査、予防介入・対策の実施、そしてその持続的な施行へ向けた、我々の、従来までの研究の蓄積に基づく。
- 本年は**特にスリランカをフィールドに、職業保健に関する現地調査に基づき、この目的の可能性を明らかにする。**
- 更に、**職業保健教育に必要な情報の整理・提供**を行う。
- これらの活動に基づく成果によって、日本の開発支援力のスケールアップへの寄与をねらう。

事業の方法

- 労働者の保健衛生の知識・意識の啓発教育に関する従来までのノウハウの整理・公開
 - 国際保健教育ネットワークからの収集・整理
 - スリランカ現地の教育コンテンツの収集・整理
- 職業保健の教育パッケージにHIV/AIDS対策など感染症対策も組み入れる新たなフレームワークを検討する。
 - 包括化、かつ緊急、重要な項目の組み込みにより、ODAを受け入れる側の途上国の、職業保健の教育協力パッケージ導入のプライオリティ向上を図る。

今年度の活動

1. スリランカにおける職業保健現状調査およびパイロット教育事業の実施
2. 職業保健教育資料ウェブサイト整備およびそれに基づく教材収集・整備

スリランカ（スリ：光り輝く、ランカ：島）

- ▶ インド洋の涙：インドの南に位置する島国
- ▶ 北海道の8割の国土、人口約2000万人
- ▶ 仏教、ヒンズー教、などからなる多宗教国家
- ▶ シンハラ人、タミール人などからなる多民族国家
- ▶ スマトラ沖地震による津波の被害をもっとも受けた国家
- ▶ 対スリランカODAの約6割は日本からである。



スリランカあれこれ

正式国名：スリランカ民主社会主義共和国

政治体制：大統領制

首都：スリ・ジャワルダナプラ・コーッテ

GDP：世界第77位 (2005年)

公用語：シンハラ語、タミル語



国旗



国章



M. ラジャパクサ大統領
(www.mahinda4srilanka.org/)

世界遺産を七ヶ所有するスリランカ



- ① アヌラーダプラ
- ② ポロンナルワ
- ③ シーギリヤ
- ④ ダンブッラ
- ⑤ キャンディ
- ⑥ シンハラージャ森林保護区
- ⑦ ゴール



シーギリヤ

スリランカの職業保健に関する現状①



裸足、素手による作業



ヘルメット、防護靴、安全グラスなどの着用などの労働安全に対する認識がいまだ不足している。

協力：スリランカ労働省、職業保健担当官，
Wajira M. Palipane氏等

スリランカの職業保健に関する現状②



乱雑な作業環境



作業環境整備の啓発

協力：スリランカ労働省、職業保健担当官，
Wajira M. Palipane氏等

途上国における職業保健教育協力

一般的なスリランカ国内産業・企業における現状は、

- ▶ **素足での日常生活**も未だ一般的、
- ▶ 急速なイノベーションに対して、**労働安全等の認識の醸成が追いついていない、**
- ▶ 高所、危険箇所などに関しても、**防護装備を用いない。**



意識啓発から始まる職業保健教育協力の意義は大。



実施にむけた、フレームワーク、教育協力モデル、OD
Aパッケージングの検討が重要

 **パイロット教育事業実施へ**

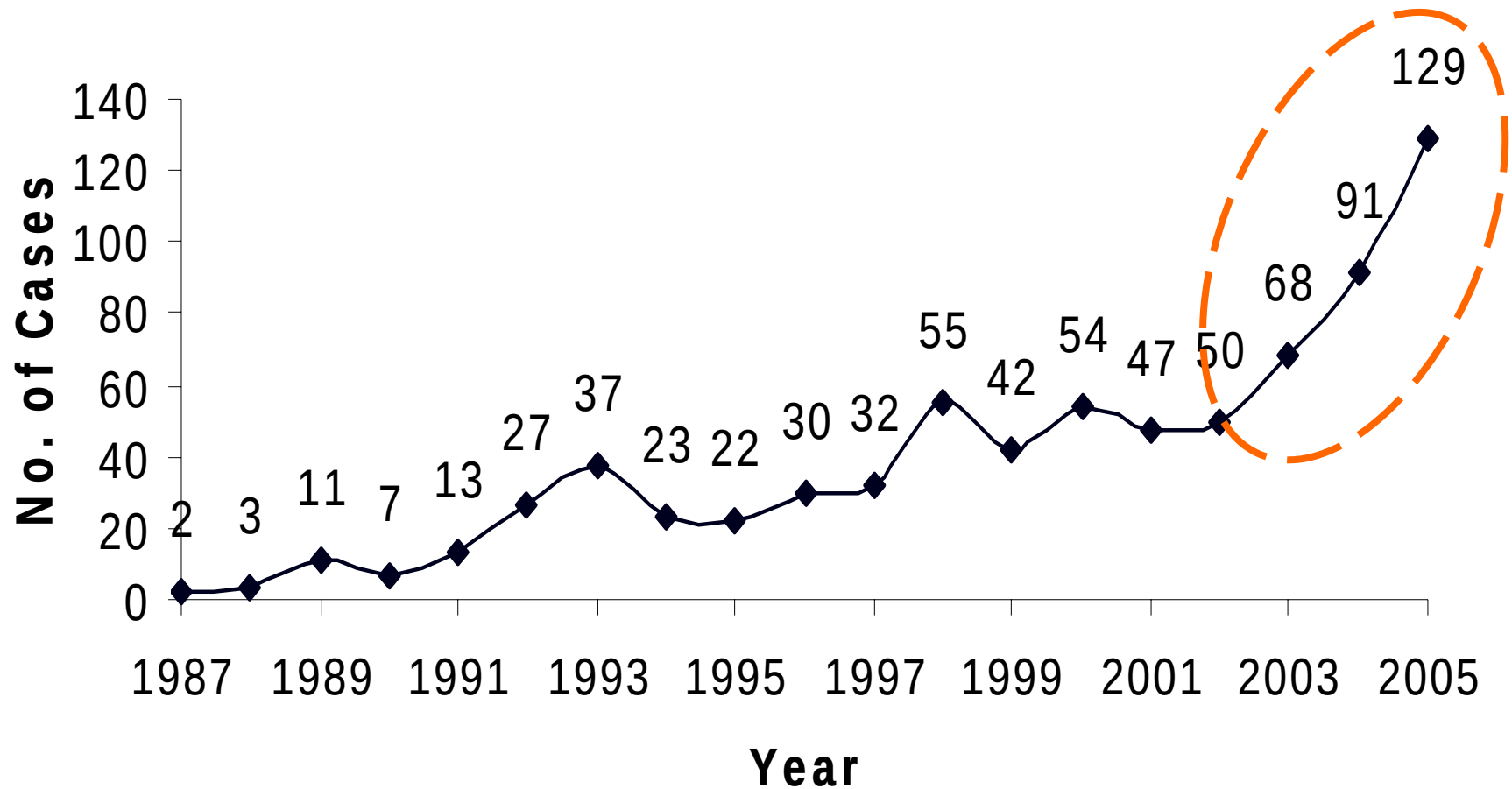
パイロット教育事業の実施

- ・ JBICによる円借款事業：**スリランカ南部高速道路建設事業**において、建設現場の労働者に対するエイズ対策の啓発ワークショップを実施。
- ・ 実施により蓄積されたノウハウ、および現地の各ステークホルダの連携に基づく**教育協力フレームワークは、職業保健教育モデルとして今後展開可能。**
- ・ 特に開発途上国では、ODAを受け入れる財政当局やインフラ事業を統括する建設行政主導の、**トップダウンでの保健事業の実施と、地域に根ざしたNGOなど草の根の活動との連携の、双方を考慮した保健教育協力モデルの構築が重要であることを明らかにした。**

インフラ事業労働者のHIV/AIDSへの 知識・態度・日常行動の実態

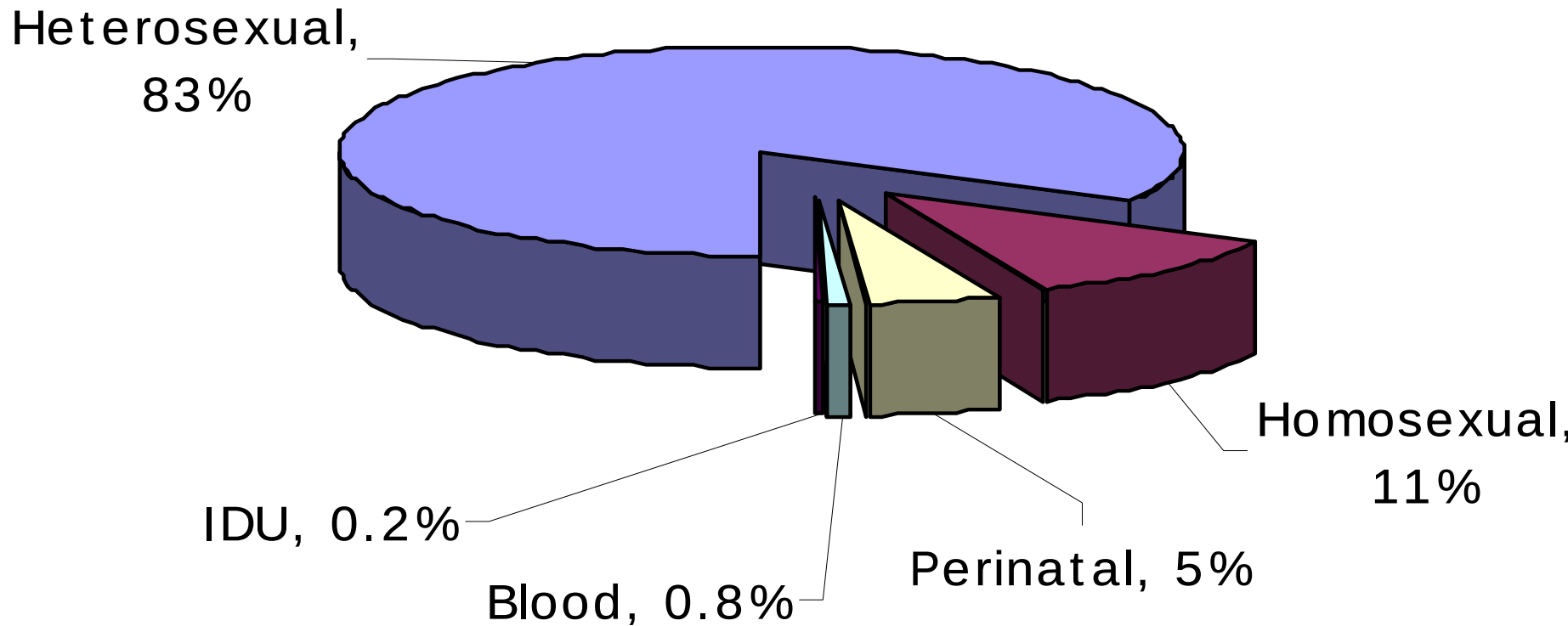
- ▶ **スリランカでのHIV/AIDSの実情**
- ▶ **労働者のHIV/AIDSに対する知識・態度・
日常行動の実態調査の概要**

スリランカのHIV感染者数推移 [1987-2005]



Source: National STD/AIDS Control programme,
Ministry of Healthcare and Nutrition, Sri Lanka

スリランカにおける主なHIV感染モード



Source: National STD/AIDS Control programme,
Ministry of Healthcare and Nutrition, Sri Lanka

エイズにまつわるスリランカの現状

- ▶ **人口増加と輸血システム整備による輸血量の増加**
- ▶ **異性間性接触による感染が優位 (アフリカ型)**
- ▶ **急速な社会、経済の成長に伴った、海外との人的交流の増加 (労働者、SW、MSMなど)**
- ▶ **インドに近い**
- ▶ **若年層の特徴的性行動**
- ▶ **低いコンドーム使用率**
- ▶ **内戦 (政府対タミールイーラム開放の虎: LTTE)**

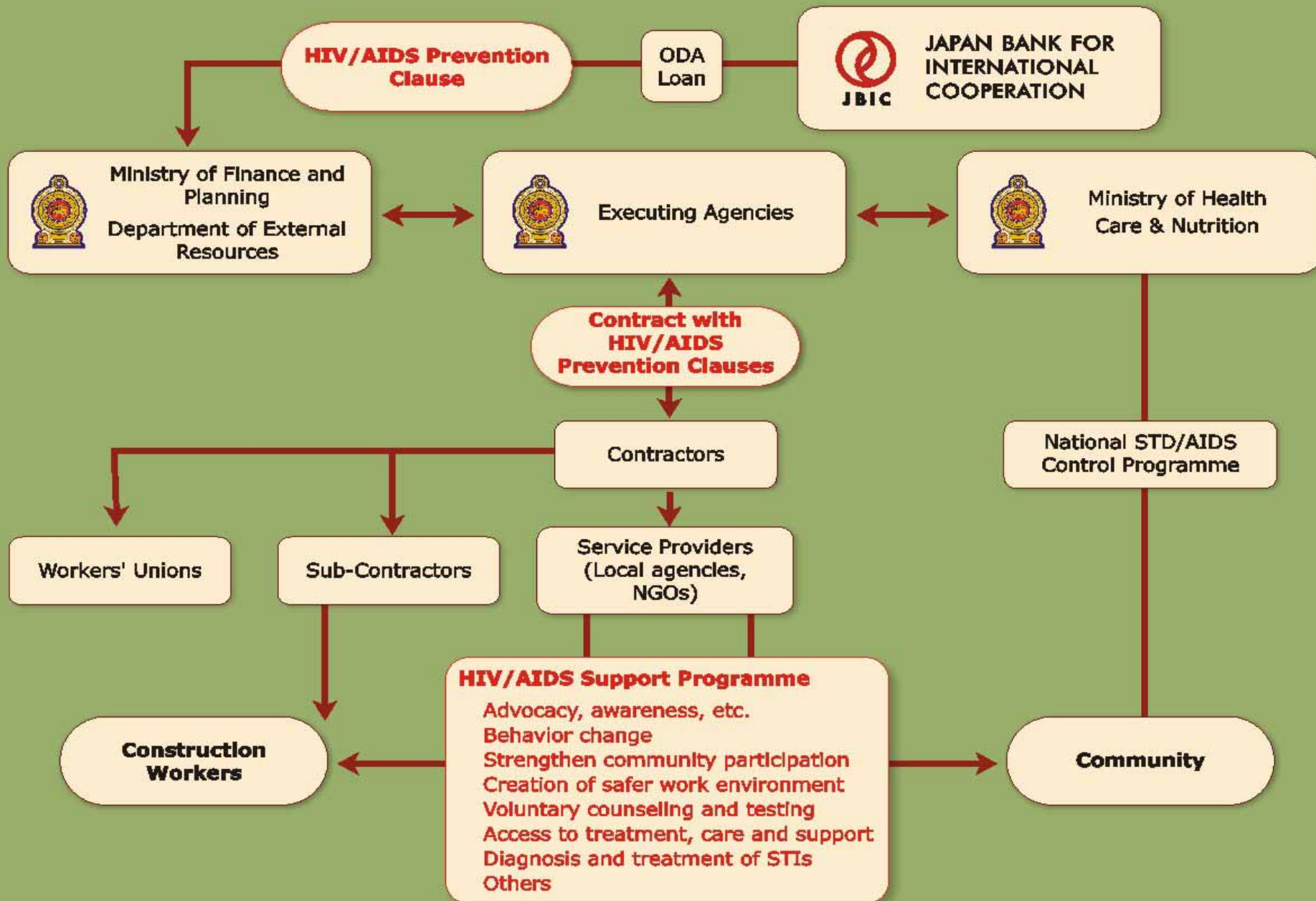
労働者のHIV/AIDSに対する知識・態度・日常行動の実態調査の概要

- ▶ HIV 感染は未だ低い、今後の対策如何では感染爆発の危険性が十分にある
- ▶ 主な感染ルートは異性間性交による
- ▶ HIV/AIDSは主にマスメディアから得た知識として、比較的認知度は高い
- ▶ 予防・啓発プログラムの実施に対する理解はある。自らが正しい知識を学び行動に反映したいという意識は高い
- ▶ コンドームの認知度、使用率共に低い。国の社会・文化的実情に即したアドボカシーが重要
- ▶ 差別・偏見は非常に高く、HIV/AIDSに対する総合的意識啓発・アドボカシープログラムの実施が必要

労働者の実情をふまえたHIV/AIDS啓発ワークショップ

- ▶ JIBCによる円借款事業：**スリランカ南部高速道路建設事業**において、建設現場の労働者に対するエイズ対策の啓発ワークショップを実施。

Stakeholders of HIV/AIDS Prevention in JBIC-funded Projects in Sri Lanka



南部高速道路建設事業労働者向けのHIV/AIDS対策啓発ワークショップ 2007年7月31日 スリランカ・アルツガマ



HIV/AIDSに関する講義



グループ討論



コンドーム使用法のデモンストレーション



参加者の声:

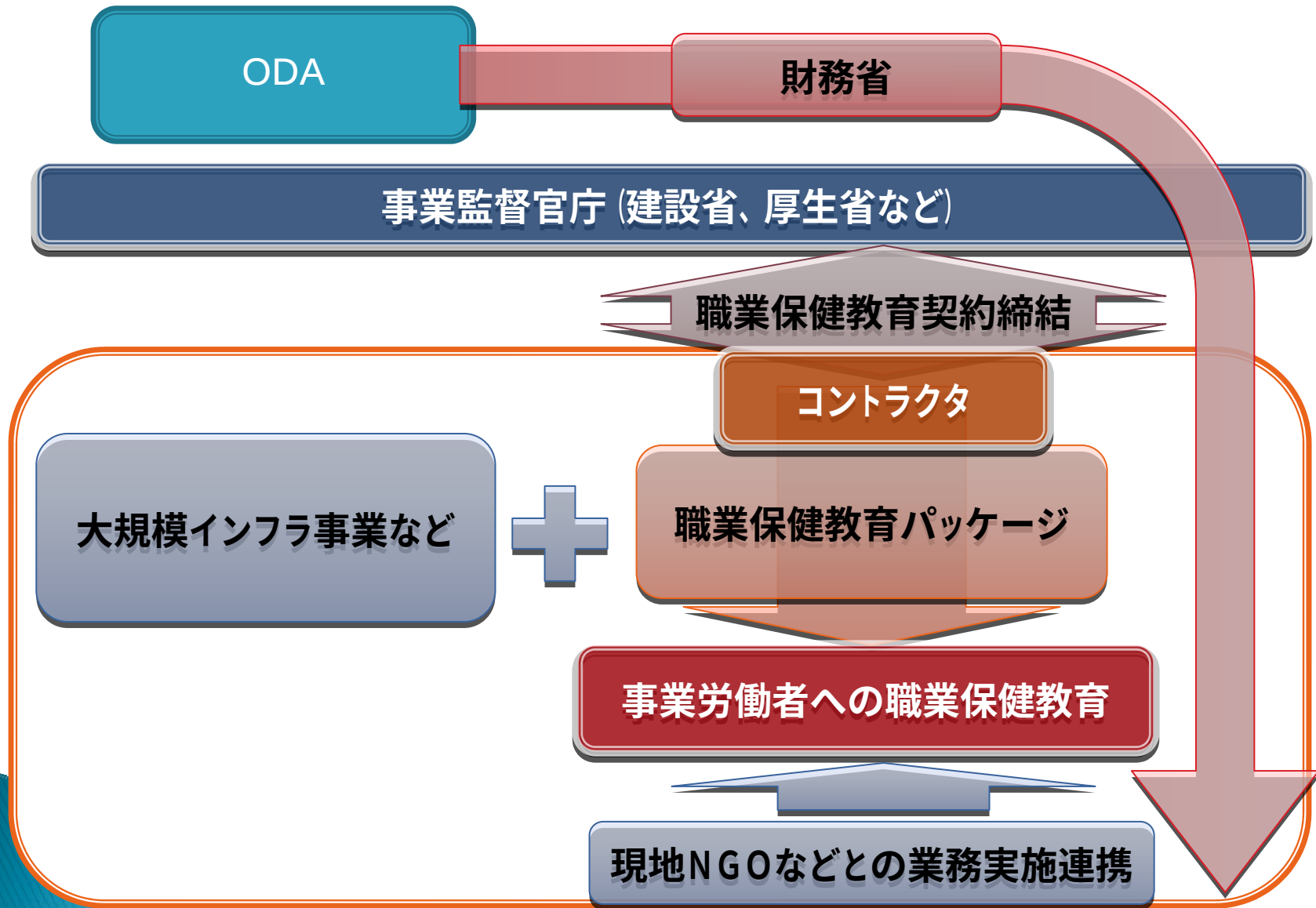
このワークショップに参加するまでHIV/AIDSについてよく知っていませんでした。ここで勉強したことを周囲や同僚に話して行こうと思います。



パイロットプロジェクトの今後

- ▶ JBICはスリランカの事業実施官庁に、HIV/AIDS 予防対策活動をプロジェクト契約条項に組み入れることを要請。**このHIV/AIDS対策啓発のパイロットプロジェクトは、次年度以降、スリランカ政府主導によって、事業化される予定。**
- ▶ 建設事業者・ワークショップ実施NGO等とのパイロット事業に関する経験を踏まえ、北海道大学・国際保健医学分野は、上記事業に関してすでに協議中。今後も協力・寄与を行う。
- ▶ この事業推進にあわせ、労働者に対する職業保健の意識啓発教育の実施についても検討、実施を各ステークホルダと協議推進していく。
- ▶ これらを踏まえ、ODAにおける職業保健教育の国際協力のメインストリーミング化をモデル化する。

職業保健教育協力のメインストーリーミング

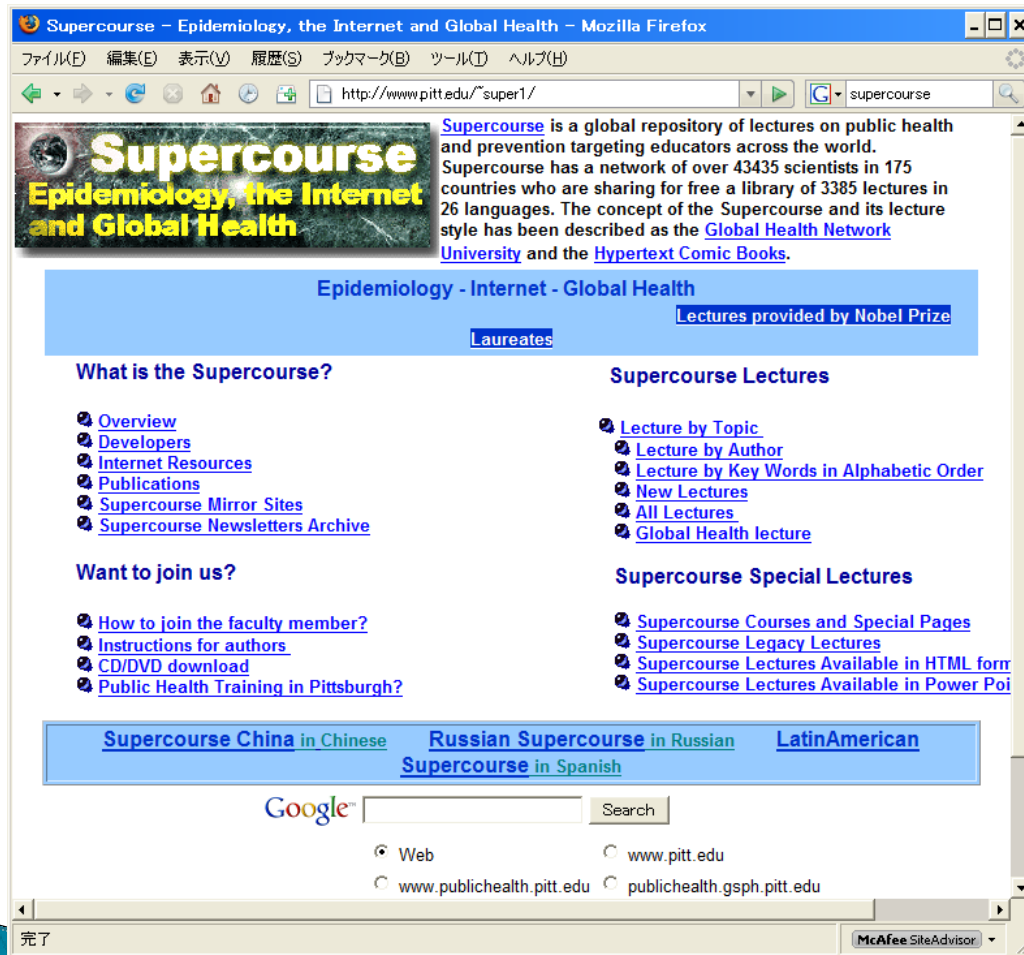


職業保健教育用資料サイトの整備

- **ピッツバーグ大学主導の国際的保健教育コンテンツアーカイブのミラーリングなどによる、職業保健関連の教育用資料の収集。**
- **スリランカ現地においては、ペラデニヤ大学やILOコロンボ事務所の本事業活動実施者との共同により、現地のコンテクストに沿った、教育コンテンツの収集。**
- **これら、収集資料は本事業代表者が運営責任者である、保健分野の遠隔教育アーカイブ：スーパーコースジャパン<http://www.supercourse-japan.org/>上に、「職業保健教育」カテゴリーを新規創設し、広く公開する予定。**

Supercourse : 国際的保健教育コンテンツアーカイブ

http://www.pitt.edu/~super1/



- ピッツバーグ大学主導の国際的保健教育コンテンツアーカイブ、スーパーコースのミラーリング
- 職業保健関連の教育用資料の日本語化等を実施

スリランカ現地、職業保健教育用資料の収集

Occupational Health

- Aims- Promotion & maintenance of highest possible degree of physical, mental, social and spiritual well being of workers in all occupations
- Prevention among workers from good health caused by working environment

Occupational Accidents

Prevention & Control



Ergonomics

ERGO-Work

Normic- Law

Literally-ergonomics means law of work

Practically it applies in a broad spectrum in every body's life
(Occupational & non occupational)



協力：スリランカ労働省、職業保健担当官，
Wajira M. Palipane氏など

スーパーコースジャパン

<http://www.supercourse-japan.org/>



- ▶ 「職業保健教育」
カテゴリーを新規
創設
- ▶ 次年度初頭への
公開に向けて整
備中

最終成果物

- 以上の活動に基づき、開発途上国における職業保健教育協力モデルの構築に関する報告書の作成を遂行中。
- 職業保健インターネット上での職業保健教育関連資料ポータルサイト、および教育用資料アーカイブスーパーコースジャパン「職業保健」カテゴリーの次年度初頭の公開を予定している。
- また、同内容をCDにもパッケージ化し、オフライン下でも閲覧可能にする。